

令和7年度日本農林漁業振興会会長賞受賞者受賞理由概要
むらづくり部門

山には竹を里には人を 今日なお生きる竹子共正会の教え

○集団等の名称 竹子地区コミュニティ協議会（代表 岩切 正信）

○所 在 地 鹿児島県霧島市

○受 賞 理 由

・地域の沿革と概要

霧島市は鹿児島県本土のほぼ中央に位置し、北部は国立公園である風光明媚な霧島山を有し、南部は豊かで広大な平野部が波静かな錦江湾に接し、湾に雄大な桜島を望むところにある。竹子地区は、霧島市北西の鹿児島空港近くに位置し、人口783名（令和7年4月現在）、水稻や茶、果樹、施設園芸、飼料作物を中心とした農業が営まれ、多彩な史跡、歴史文化、地域行事を通じて、助け合い・支えあいの連携が図られた地域である。

・むらづくり組織の概要

むらづくりの母体となる「竹子共正会」が明治29年に発足し、長年にわたり地域活動の主体となり、地域課題に関する話し合いや課題解決に向けた具体的な取組を行ってきた。竹子小学校の児童数減少に歯止めがかからない中、平成25年に「竹子小学校活性化委員会」が発足し、そこから地域住民を巻き込んだ「竹子の里を考える会」へと発展した。しかしながら、10年後には竹子地区の人口が700名を割り込むことや人口流出の加速化が予想され、人口の維持・増加対策や住環境の整備・充実などが喫緊の課題となっていた。そこでこれまでの取組を継承し、異なる視点による取組を展開すべく、地区専属の地域おこし協力隊員を採用し、令和2年8月に「竹子地区コミュニティ協議会（通称：竹子っ好調会）」が設立された。竹子っ好調会は竹子共正会の出資を受け活動しており、30～80代の幅広い年齢層の38名（移住者3名含）が、産業振興部、生活環境部、地域魅力アップ部、定住促進部、加工・販路促進部の5つの部会で活動している。

・むらづくりの取組概要

（1）農業生産面

- ① 令和6年度から竹林整備事業に取り組み、竹材販売の他、筍の水煮や筍のドレッシングなど「竹」のブランド力を活かした加工品の開発で収益を確保している。
- ② 令和4年度から新たな特産品作りの一つとして梨と葡萄のミックスワインの製造、実証を行っている。初年度450本は完売し、現在は3年目の製造に取り組んでいる。
- ③ 竹子地区の魅力を直接都市住民に広く発信するために令和5年にアンテナショップ「じゃっど☆ラボ」を東京都大田区に開設した。

（2）生活・環境整備面

- ① JA倉庫跡地を改修し、「ふれあいサロンたかぜバル」を開設した。昼は食堂やふれあいサロンとして使用し、夕方以降は予約制で、地域内唯一の居酒屋として営業するなど地域住民の交流拠点として活用されている。
- ② 平成25年から、9月にウォーキングイベント「竹子ふるさとウォーク」を開催しており、毎年200名近くが参加するイベントになっている。
- ③ 地域の空き家を借り受け、移住希望者が宿泊体験できる宿泊施設「さるくーる竹子」を開設しており、現在までに3世帯6名が竹子地区へ移住している。

・他地域への普及性と今後の発展方向

本取組は、地域資源の加工品開発、ふれあいサロン兼農村レストランの設置や空き家を活用した移住体験施設の開設、都市部へのアンテナショップの出店など、地域の魅力を都市住民に広く発信できていることが地域づくりの活力につながっている。このような交流人口、関係人口の増加を目指し、移住者が定着するなどの成果がみられる本取組は、全国のむらづくりのモデル事例になり得るものである。